

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	みずいろの木つなぐ(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日		令和7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○従業者評価実施期間	令和7年10月15日		令和7年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・運動、遊びを通して体づくりを行うことができる。 しっかり体を動かして遊べるよう、プレイルームは広くできている。ご近所の方のご厚意によって畑や田んぼで遊ばせてもらえる。	・柔軟体操、コグトレ棒体操を取り入れ、体の柔軟性、体感を鍛える。 ・異年齢での関わりの中で遊び方、ルール等を伝え合うことができる環境を作る。 ・職員も一緒になって子どもたちと一緒に遊ぶ。	・よりよい環境を作るために半年に一回専門家に庭の整備をお願いする。 ・子どもたちと一緒に庭を整備することで自分たちの居場所である意識をつける。 ・遊びの工夫を行う。
2	・個別で対応する療育を取り入れています。 お友だちと協力することを学び、個々の特性に合わせての療育を取り入れている。	・集団活動を通して異年齢との関わりを持ち、ゲーム性やルールを学ぶ ・それぞれに合わせた療育のメニューを考え、道具等を準備している。	・集団活動を通して色々な遊びへと展開していく ・療育に関する本などを使い、より良い療育をしていけるように研修等を取り入れていく。
3	・保護者様が行事に参加したり、保護者会を開催し、情報交換できる場をつくる。 親子でふれあいの時間を作ることができるよう行事を行っている。また、保護者会を発足し、座談会を行うことで、意見交換ができる。	・保護者様同士が交流しやすいように一緒に行事を盛り立ててもらう。 ・事業所に来る機会を作ることによって事業所内での活動を知ってもらったり、日頃の子どもたちの様子を阿伝えできるようにしている。	・保護者会の座談会の回数を増やして誰もが参加しやすいようにする。 ・保護者様が参加できる行事を増やし、子どもとの接し方を伝える機会を増やす。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・専門職員がいない。 専門職員等がいることでさらに専門的な支援を行うことができる。	・専門の有資格者が少ない。 ・現在募集をしているがまだ雇用につながっていない。	・専門機関などを訪問したり、様々な研修を積極的に受けることで現在の指導員のスキルアップを図る。 ・今後も募集を続け、同じ志で支援を行える人材を探す。
2	・他の事業所や保育園などとの交流を持つ機会がない	・他事業所などとの関係が強化できていない ・他事業所や園との交流の仕方等が明確になっていない。	・保護者様や職員に今後交流が必要か、交流をするとなればどのような交流方法がいいかなどのアンケートを取る。
3	・バリアフリーになっていないので今後車いす等を使用している児童の受け入れが困難。	段差や建物の構造上車いすを利用しているお友だちの受け入れは難しい状態です	今後、車いすで生活しているお友だちの利用のためにスロープや手すりなどの取り付けを検討していく